

Ⅱ 厚木基地

1. 厚木基地の沿革と概要

(1) 人口密集地に所在する厚木基地

約 507 万平方メートルの広大な敷地を有する厚木基地は、大和市の南西部に位置し、本市及び綾瀬市、海老名市の 3 市にまたがって所在している。

厚木基地の滑走路は本市側にあり、さらに滑走路北側の延長線上には、本市の中でも特に住宅が密集する地域が広がっている。

さらに、前述の 3 市に加えて、厚木基地周辺には横浜市、藤沢市、相模原市、座間市、東京都町田市などが所在しており、各市とも過密化した市街地を形成している。

国によれば、厚木基地周辺人口は 240 万人とのことであり、このような中に所在する厚木基地は、全国に類例のない「人口過密都市の中にある軍用飛行場」として、基地周辺住民のみならず、広域にわたる多くの人々に対し、航空機騒音や事故の不安等を与え、その日常生活に様々な影響を及ぼしている。



厚木基地と周辺市街地（写真右側区域が大和市域）

(2) 厚木基地の沿革

基地の歴史は、1938年（昭和13年）に旧日本海軍が航空基地として定めたことから始まり、1941年（昭和16年）には帝都防衛海軍基地として使用が開始された。その後、1945年（昭和20年）の終戦により連合国軍を構成する米軍に接收された。そして、1950年（昭和25年）には米陸軍から米海軍に移管され、以降、米第7艦隊の後方支援基地として現在に至る。この間の1971年（昭和46年）には基地の一部が海上自衛隊に移管され、米海軍は「厚木航空施設」として、また、海上自衛隊は「厚木航空基地」として、日米が共同使用する基地となっている。

厚木基地は厚木市にはなく、基地の名称とは異なる前述の3市に所在する。

このことは多くの人の疑問となっているところである。この名称の由来については、「この近隣で古くから宿場町、生産物の交易の場として栄えていた厚木町の名が全国的に知られていたため」、「基地の所在を欺くなど、軍事上の理由により他の地名が付けられた」、「大和基地とすると、戦艦大和や奈良の大和と混同しやすいから」など諸説ある。しかし、そのいずれも確証がなく、未だに名称の由来は解明されるに至っていない。



1945年（昭和20年）厚木基地に到着した
マッカーサー元帥



1946年（昭和26年）頃の
厚木基地の旧管制塔



現在の格納庫



現在の厚木基地の管制塔

(3) 厚木基地の概要

名 称	厚木海軍飛行場 (FAC3083)	
所在地等	大和市上草柳、下草柳、福田、本蓼川、綾瀬市深谷、蓼川、本蓼川、海老名市東柏ヶ谷	
	標点位置	北緯 35° 27' 17"、東経 139° 27' 0"
	標 高	62m
面 積	約 5,069 (千㎡) (大和市域分約 1,121 (千㎡))	
	内 訳	国有地 約 5,064 (千㎡) 市有地 約 20 ㎡ 民有地 約 4,4 ㎡
主な施設	滑走路	延長 2,438m×幅 45m (8,000 フィート×150 フィート) コンクリート舗装 オーバーラン南北各 300m (1,000 フィート)
	誘導路	延長 6,764m×幅 22m コンクリート舗装
	建 物	格納庫施設、 管制塔、 オペレーション施設、 事務所施設、 住宅施設、 倉庫施設、 娯楽施設、 貯油施設、 エンジン試験場、 ゴルフ場、 射撃場、 弾薬庫 G C A } (※注を参照) I L S
使用形態	米海軍と海上自衛隊との共同使用	
使用者別	米 海 軍	海 上 自 衛 隊
配属部隊	厚木航空施設司令部 前方艦隊航空司令部 第 5 空母航空団 第 51 海上攻撃ヘリコプター飛行隊 など	航空集団司令部 第 4 航空群司令部 第 3 航空隊 第 4 整備補給隊 厚木航空基地隊 硫黄島航空基地隊 南鳥島航空派遣隊 第 51 航空隊 第 61 航空隊 航空管制隊 航空プログラム開発隊 厚木システム通信分遣隊 厚木情報保全分遣隊 厚木警務分遣隊

※ (注)

- G C A (地上誘導着陸方式)

視界不良の時、地上レーダー(空港監視レーダー、及び精測進入レーダー)により、進入開始から接地点付近までの航空機の動きを監視し、無線電話により適切な経路を指示し着陸させる方式で、このための装置

- I L S (計器着陸装置)

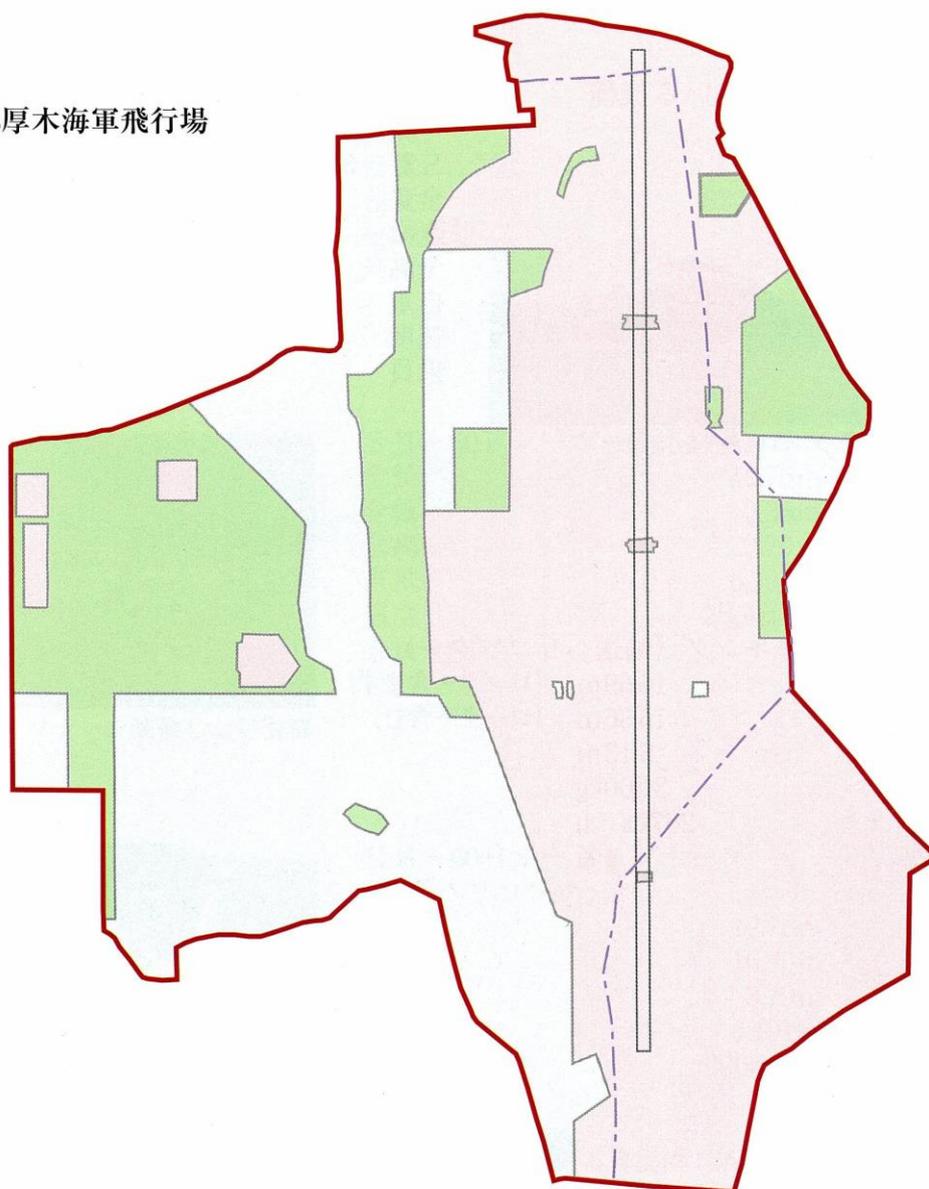
航空機が計器飛行状態で滑走路に正確に進入、着陸できるように、地上から誘導電波を発射し、着陸させる装置

(4) 厚木基地における共同使用の区分図

(平成 28 年 1 月 1 日現在)

凡例	使用区分		面積 (千㎡)
	2-1-(a) 地区	管理権及び使用について米軍だけの専用区域	約 1,434 (千㎡)
	2-4-(a) 地区	管理権を米軍が有し、自衛隊と共同で使用している区域	約 1,076 (千㎡)
	2-4-(b) 地区	管理権を自衛隊が有し、米軍と共同で使用している区域	約 2,559 (千㎡)
---	行政境界		計 約 5,069 (千㎡)
大和市域分			約 1,121 (千㎡)

FAC3083厚木海軍飛行場



2. 米海軍厚木航空施設

(1) 米海軍厚木航空施設の概要

「米海軍厚木航空基地」の名称は、1971年（昭和46年）7月1日、海上自衛隊と共同使用が開始されると同時に「米海軍厚木航空施設」へと変更された。

この施設では、洋上及び陸上の米艦隊諸部隊に対し、諸施設とサービスの提供及び補給業務といった支援業務を行っており、前方展開する米海軍航空部隊に対する人員、訓練、装備の監督などを行う前方艦隊航空司令部や、横須賀基地を事実上の母港とする空母ロナルド・レーガンの第5空母航空団などが置かれている。

また、1994年（平成6年）10月1日には横浜市にある上瀬谷通信施設が隷下となった。

米海軍厚木航空施設は、さながら一つの都市としての様相を呈し、飛行場としての機能に加え、消防署・病院・郵便局等の公共的施設をはじめ、家族住宅・独身宿舎・礼拝堂・銀行・スーパーマーケット・レストラン・ガソリンスタンド等の生活関連施設、体育館・各種グラウンド・プール・テニスコート・ゴルフ場・ピクニックエリア等のスポーツ施設、さらに劇場・図書館・ツアーサービス・カルチャーセンター等のレクリエーション施設、小学校・大学等教育機関など、居住あるいは一時的に滞在する隊員とその家族の生活のあらゆる部門にわたり、米海軍管理のもとに利便を提供している。



基地正門



米軍家族住宅



米軍小学校



礼拝堂

(2) 厚木基地に飛来する米空母艦載機等

空母ロナルド・レーガン横須賀入港の際には、この空母の艦載機が厚木基地に飛来する。現在、空母ロナルド・レーガンには、第5空母航空団の航空機が搭載されている。

第5空母航空団所属飛行部隊

飛行隊	機種	
戦闘攻撃飛行隊	VFA-27 (ROYAL MACES)	F/A-18E
	VFA-102 (DIAMONDBACKS)	F/A-18F
	VFA-115 (EAGLES)	F/A-18E
	VFA-195 (DAMBUSTERS)	F/A-18E
戦術電子飛行隊	VAQ-141 (SHADOW HAWKS)	EA-18G
艦載早期警戒飛行隊	VAW-115 (LIBERTY BELLS)	E-2C
輸送飛行隊	VRC-30Det5 (PROVIDERS)	C-2A
ヘリコプター飛行隊	HSC-12 (GOLDEN FALCONS)	MH-60S
	HSM-77 (SABER HAWKS)	MH-60R

その他の飛行部隊

飛行隊	機種	
ヘリコプター飛行隊	HSM-51 (WARLORDS)	MH-60R

空母ロナルド・レーガン艦載機等



F/A-18E スーパーホーネット (戦闘攻撃機)

全長	18.3 m
全幅	13.6 m
全高	4.88 m
自重	13,400 kg
速度	2,148 km/h
航続距離	4,000 km
乗員	1 名

(写真：米海軍ウェブサイトより)



F/A-18F スーパーホーネット (戦闘攻撃機)

全長	18.3 m
全幅	13.6 m
全高	4.88 m
自重	13,400 kg
速度	2,148 km/h
航続距離	4,000 km
乗員	2 名

(写真：米海軍ウェブサイトより)



EA-18G グラウラー (電子戦機)

全長	18.3 m
全幅	13.6 m
全高	4.88 m
自重	15,011 kg
乗員	2 名

(写真：米海軍ウェブサイトより)



E-2C ホークアイ (早期警戒機)

全長	17.54 m
全幅	24.56 m
全高	5.58 m
自重	27,265 kg
速度	626 km/h
航続距離	2,854 km
乗員	5 名

(写真：米海軍ウェブサイトより)



C-2A グレイハウンド（輸送機）

全長	17.32 m
全幅	24.56 m
全高	5.14 m
自重	16,486 kg
速度	574 km/h
航続距離	1,930 km
乗員	4 名

（写真：米海軍ウェブサイトより）



MH-60R シーホーク（対潜ヘリコプター）

全長	19.5 m
ローター直径	16.4 m
全高	5.2 m
自重	6,545 kg
速度	333 km/h
航続距離	454 km
乗員	3 名

（写真：米海軍ウェブサイトより）



MH-60S シーホーク（救難ヘリコプター）

全長	19.5 m
ローター直径	16.4 m
全高	5.2 m
自重	6,545 kg
速度	333 km/h
航続距離	454 km
乗員	4 名

（写真：米海軍ウェブサイトより）

米海軍の常駐機



U C - 1 2 F （ 連 絡 機 ）

全長	13.36 m
全幅	16.61 m
全高	4.52 m
自重	3,518 kg
速度	536 km/h
乗員	2 名

(3) 米海軍の空母

日本を含む極東アジアや西太平洋地域は、米海軍第7艦隊が担当しており、その活動範囲は1億2,400万平方キロメートルにも及ぶ。第5空母航空団の航空母艦である空母ロナルド・レーガンは、駆逐艦、巡洋艦、補給艦、潜水艦などを伴って活動する第7艦隊の主力艦である。

1973年(昭和48年)10月5日の空母ミッドウェーの横須賀入港以降、現在の空母ロナルド・レーガンに至るまで、5隻の空母が横須賀を事実上の母港としている。

空母名	配備時期
空母ミッドウェー	1973年(昭和48年)10月5日
空母インディペンデンス	1991年(平成3年)9月11日
空母キティホーク	1998年(平成10年)8月11日
空母ジョージ・ワシントン	2008年(平成20年)9月25日
空母ロナルド・レーガン	2015年(平成27年)10月1日



空母ロナルド・レーガン (CVN-76)

(写真: 米海軍ウェブサイトより)

就 役 2003年7月12日
全 長 332.85m
全 幅 40.84m
排 水 量 約97,000ト
推 進 機 関 原子炉2基
速 力 約30ノット
搭載航空機 約85機

3. 海上自衛隊厚木航空基地

(1) 海上自衛隊厚木航空基地の概要

海上自衛隊は、1952年(昭和27年)4月26日海上保安庁の一組織として生まれた海上警備隊が、1954年(昭和29年)7月1日に、海上自衛隊として発足したことに始まる(同年7月1日防衛庁設置法、自衛隊設置法の施行により陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊が発足する)。

海上自衛隊は、海上からの侵略に対し我が国を防衛するとともに、我が国周辺海域における、海上交通の安全を確保することを主な任務としている。

海上自衛隊が、厚木基地を使用するようになったのは、1971年(昭和46年)7月1日からである。ここには、海上自衛隊の航空部隊の最高司令部である航空集団司令部が設置(1973年(昭和48年)12月25日)され、海上自衛隊航空部

隊の中核として、全国各地に所在する航空部隊を一元的に指揮している。このほかには、第4航空群、第51航空隊、第61航空隊、航空管制隊等が置かれている。



海上自衛隊第4航空群司令部

(2) 海上自衛隊の移駐経緯

海上自衛隊の厚木基地への移駐については、下記のような経緯がある。

主な流れ

1970年(昭和45年) 12月21日	第12回日米安全保障協議委員会開催 在日米軍基地の整理、統合について検討された。その中で、厚木飛行場については次の方針が打ち出された 「米軍機及び米側要員の大部分は、昭和46年6月末までに移駐するが、艦隊航空部隊西太平洋修理部を含む若干の米軍施設は、小規模な専用区域として存続する。日本政府は、昭和46年6月30日までに本飛行場の運営及び維持上の責任を負い、また、前記の米軍区域への出入りを可能とし、かつ、その他の米軍の運航上の必要を充たすため、然るべき共同使用の取決めが行われる。」(外務省情報文化局発表「日米安全保障協議委員会第12回会合について」より一部抜粋)
1971年(昭和46年) 3月1日	大和市長等、国に「厚木海軍飛行場の整理縮小計画に係る緊急要望」を提出し、基地の一部返還等を求めた
1971年(昭和46年) 5月	横浜防衛施設局長、はじめて「厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について」正式に協力を要請
1971年(昭和46年) 6月25日	日米合同委員会、厚木飛行場の一部を自衛隊に移管することを合意(同月29日閣議決定、航空管制権等が米軍から自衛隊へ)
1971年(昭和46年) 7月1日	海上自衛隊が厚木飛行場の維持運営にあたり、日米の共同使用が開始される
1971年(昭和46年) 12月20日	横浜防衛施設局長が、「厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について」を大和市等に通知 【※次頁参照】
1971年(昭和46年) 12月24日	海上自衛隊厚木航空基地分遣隊が編成されると共に、千葉県下総基地から第4航空群等が移駐し、本格的な共同使用が始まる
1973年(昭和48年) 12月24日	横浜防衛施設局、航空集団司令部等に関し、「海上自衛隊航空部隊の厚木基地への移駐について」大和市に通知
1973年(昭和48年) 12月25日	千葉県下総基地から、海上自衛隊航空集団司令部等が移駐

昭和46年12月20日

大和市長 殿

横浜防衛施設局長

厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について

厚木海軍飛行場の運用に関し、日頃ご配慮とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昭和46年6月29日の閣議決定に基づき、海上自衛隊が本年7月1日から当該飛行場の維持運営にあっておりますが、今般、下記事項を履行することを約し、ここに、海上自衛隊が部隊を編成し、その任務の遂行にあたることとなりましたので、通知します。

記

1 飛行場の運用について

- (1)人口過密化傾向の著しい貴市の事情を十分に理解し、今後、滑走路の新設、延長等飛行場の拡張は行なわず、又、客観情勢に対応し、極力、整備縮小に努力します。
- (2)当該飛行場の運用にあたっては、住民の生活の安全確保を第一義的に配慮し、海上自衛隊としても、現在当該飛行場においてとられている航空機の騒音の軽減に関する規制措置を遵守するのほか、要すれば、貴市と協議する機関を設け、一層の安全対策をこうじます。
- (3)将来、今般の自衛隊の使用計画を著しく変更する場合は、あらかじめ貴市と協議します。
- (4)ジェットエンジンを主たる動力とする飛行機（ターボプロップ機を除く。）は、緊急止むを得ない場合を除き、使用しません。

補 遺

1 部隊の編成について

当該飛行場（基地）における部隊の編成については、厚木航空基地分遣隊のほか、現在、下総航空基地にある部隊の一部（第4航空群等）を漸次移転し、最終的には航空機約50機、人員約2,000人をもって構成する計画である。

2 著しい変更について

「厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について」の記1(3)に規定する「著しく変更する場合」とは、「1飛行隊以上の部隊を増強する場合」と解する。

(3) 厚木航空基地で運用されてきた主な航空機

現在、海上自衛隊厚木航空基地には、哨戒機をはじめとして、輸送機やヘリコプターなどの航空機が配備されている。

1971年（昭和46年）より、海上自衛隊は厚木基地の使用を開始し、これまで主に哨戒機部隊が配置されてきた。主力である固定翼の哨戒機については、当初S-2F、P2V-7が運用され、1970年代にはP-2Jが運用された。その後は、1980年代から現在に至るまでP-3Cが運用されている。

P-3Cが我が国に初めて配備されたのは厚木基地である。P-3Cの導入に際して、1980年（昭和55年）10月、防衛庁から関連諸施設の整備計画とともに、1981年（昭和56年）P-3C3機の配備が発表され、その後、対潜哨戒システムの運用、研究、要員の教育、部隊の新編・改編などが行われた。

防衛白書によれば、2015（平成27）年3月31日現在、海上自衛隊のP-3C保有数は69機となっている。

海上自衛隊の航空機



LC - 90 (連絡機)

全長	10.82 m
全幅	15.32 m
全高	4.33 m
重量	4,377 kg
速度	363 km/h
乗員	5名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)



P - 1 (哨戒機)

全長	38.0 m
全幅	35.4 m
全高	12.1 m
重量	80,000 kg
速度(最大)	833 km/h
乗員	11名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)



P - 3 C (哨戒機)

全長	35.6 m
全幅	30.4 m
全高	10.3 m
重量	56,000 kg
速度(最大)	731 km/h
乗員	11名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)



U P - 3 C (多 用 機)

全長 35.6 m
全幅 30.4 m
全高 10.3 m
重量 56,000 kg
速度 (最大) 731 km/h
乗員 5 名

(写真:海上自衛隊ウェブサイトより)



U S - 1 A (救 難 飛 行 艇)

全長 33.46 m
全幅 33.15 m
全高 9.95 m
重量 45,000 kg
速度 (最大) 490 km/h
乗員 12 名

(写真:海上自衛隊ウェブサイトより)



U S - 2 (救 難 飛 行 艇)

全長 33.3 m
全幅 33.2 m
全高 9.8 m
重量 47,700 kg
速度 (最大) 583 km/h
乗員 11 名

(写真:海上自衛隊ウェブサイトより)



C - 1 3 0 R (輸 送 機)

全長 29.80 m
全幅 40.40 m
全高 11.70 m
重量 70,300 kg
速度 (最大) 約 589 km/h
乗員 6 名

(写真:海上自衛隊ウェブサイトより)



S H - 6 0 J (哨 戒 機)	
全長	19.8 m
全幅	16.4 m
全高	5.2 m
重量	9,926 kg
速度 (最大)	275 km/h
乗員	3 名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)



S H - 6 0 K (哨 戒 機)	
全長	19.8 m
全幅	16.4 m
全高	5.4 m
重量	10,872 kg
速度 (最大)	250 km/h
乗員	4 名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)



U H - 6 0 J (救 難 機)	
全長	19.8 m
全幅	16.4 m
全高	5.1 m
自重	9,979 kg
速度 (最大)	259 km/h
乗員	4 名

(写真：海上自衛隊ウェブサイトより)

(4) 次期固定翼哨戒機の厚木基地配備

2007年(平成19年)10月11日、防衛省は大和市に対し、海上自衛隊厚木航空基地への次期固定翼哨戒機の乗り入れについて通知した。その後、9月にはXP-1の1号機が、11月には2号機が厚木基地に飛来し、2機による性能評価が開始された。

その性能評価が厚木基地において行われている中の2010年(平成22年)2月15日、国から大和市に対し、平成23年度末から厚木基地にP-1を配備する旨が通知された。

その後不具合の影響により配備が延期されたが、国は平成24年度から、固定翼哨戒機P-3Cの後継機として、厚木基地にP-1を配備することなどを通知した。また、国は通知の中で、厚木基地へのP-1配備と46文書との関係について、「引き続き46文書は尊重すべきもの」との考えを示した。その後2013年(平成25年)3月29日には、2機のP-1が厚木基地へ飛来した。